

人文科学から 森林科学への アプローチ



主催 一般社団法人 日本森林学会 企画委員会

日時 2025年5月28日(水) 14:00~17:00

場所 日本森林技術協会3階大会議室、オンライン併用(Teams)

趣旨

今日、気候変動や生物多様性など環境問題への取り組みが喫緊の課題となる中、多様な視点からのアプローチが重要とされている。森林科学は、多様な分野の視点を内包する総合科学の特徴を持っており、生態学などの知見を基盤に、木材生産や国土保全、治山治水、また山村の暮らしや文化も含む多様な側面から森林の管理に関わる知見を蓄積し、応用科学として社会に貢献している。今後はさらにSDGsの実現に向けて、環境と人や社会との関わりについて、他の学問分野と連携したダイナミックな取り組みが求められる。その中で、森林科学とのつながりが深い分野に加え、接点が少なかった他分野との連携を図る必要があるだろう。

他の学問分野との連携を図る手がかりとして、本シンポジウムでは、これまで関わりが少なかった“人文科学”に着目する。人文科学では、人と自然や環境との関わりが検討されている。本シンポジウムでは、人文科学の視点で環境や自然の課題にアプローチした事例を紹介する。森林科学と関連性が深い“森林被害、自然遺産、地域防災、自然体験活動”の話題を切り口に、人文科学の研究事例を通じて、森林科学との接点を考える機会とし、議論を深めてゆきたい。

プログラム

司会 藤田 早紀 (森林総合研究所)

趣旨説明 井上真理子 (森林総合研究所多摩森林科学園 日本森林学会企画担当理事)

<講演>

- | | |
|---|----------------------|
| 1 「環境」史としての森林被害:古文書共有の旅 | 寺島 宏貴 (東大文書館 学術専門職員) |
| 2 森林から考える世界遺産・富士山の観光史 | 千原 鴻志 (山梨県立博物館 学芸員) |
| 3 森林コモンズにおける神と妖怪 | 高田 知紀 (兵庫県立大学 准教授) |
| 4 森林科学の学際的展開における環境思想・倫理学の貢献の可能性:事例と方法論の検討 | 太田 和彦 (南山大学 准教授) |

コメント 森林科学・林政学の視点から 平野 悠一郎 (森林総合研究所多摩森林科学園)

講評 小池 孝良 (北海道大学名誉教授)

【関連書籍】

太田和彦・吉永明弘編著(2024)『都市の緑は誰のものか』ハウレーカ

高田知紀(2024)『神と妖怪の防災学』法律文化社

関礼子・井上真理子・太田和彦編(2025)『“驚き”を呼び込む自然体験学習』昭和堂